

第十五回 貴族院議事速記録第九號 帝國議會

第二十二 應算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス
ヲ要スル件(追第三號)(政府提出衆) 議院送付

會議(豫算委員)

明治三十四年二月二十三日(土曜日)

午前十時十六分開議

議事日程 第九號 明治三十四年二月二十三日

午前十時開議

第一 稅關貨物取扱人法案(政府提出)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 酒造稅法中改正法律案(政府提出衆) 議院送付

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五 酒精及酒精含有飲料稅法案(政府提出衆) 議院送付

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第七 沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案(政府提出衆) 議院送付

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第九 酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金

ニ關スル法律案(政府提出衆) 議院送付

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十一 醫藥用、工業用酒精戻稅法案(政府提出衆) 議院送付

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十三 麥酒稅法案(政府提出衆) 議院送付

第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十五 砂糖消費稅法案(政府提出衆) 議院送付

第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十七 關稅定率法及同法附屬輸入稅表中改正法律案(政府提出衆) 議院送付

第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十九 關稅特別監視地域ニ關スル法律案(政府提出)

第二十 明治三十二年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)(政府提出衆) 議院送付

第二十一 追加案(特追第一號)(政府提出衆) 議院送付

第二十二 應算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス
ヲ要スル件(追第三號)(政府提出衆) 議院送付

第二十三 應算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス
ヲ要スル件(追第三號)(政府提出衆) 議院送付

第二十四 應算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス
ヲ要スル件(追第三號)(政府提出衆) 議院送付

第二十五 應算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス
ヲ要スル件(追第三號)(政府提出衆) 議院送付

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ報告ヲ致シマス
〔小原書記官朗讀〕

去ル二十日馬匹去勢法案特別委員會ニ於テ當選シタル委員長副委員長ノ氏
名左ノ如シ

委員長 伯爵清棲家教君 副委員長 子爵長岡護美君

同日本院ニ於テ可決シタル明治三十三年勅令第二百九十四號承諾ヲ求ムル
件ハ即日衆議院へ送付シタリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ日程ニ移リマス、稅關貨物取扱人法案、政
府提出、第一讀會

〔子爵谷千城君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵近衛篤磨君) チヨット御待ナ下さい

〔小原書記官朗讀〕

稅關貨物取扱人法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十四年二月十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

稅關貨物取扱人法

第一條 本法ニ於テ稅關貨物取扱人ト稱スルハ貨主ノ爲ニ自己又ハ其ノ貨
主ノ名ヲ以テ稅關ニ對シ貨物ニ關スル手續ノ取扱ヲ爲スヲ業トスル者ヲ
謂フ

第二條 稅關貨物取扱人タラムト欲スル者ハ其ノ業務ニ從事セムトスル地
ヲ管轄スル稅關長ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ヲ受クルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ免許料ヲ納ムヘシ

第三條 左ニ掲クル者ハ稅關貨物取扱人タルコトヲ得ス

第一 剝奪公權者及停止公權者

第二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分產若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

第三 國稅滯納處分ヲ受ケ満一箇年ヲ經過セサル者

第四 重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及關稅法第七十四條乃至第七十

六條ノ規定ニ違反シ處罰ヲ受ケ満三箇年ヲ經過セサル者

第五條 稅關貨物取扱人ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證トシテ金錢又ハ有價證券ヲ提供スルコトヲ要ス

稅關貨物取扱人ハ前項ノ身元保證物ヲ提供シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第六條 稅關貨物取扱人稅關ニ納付スヘキ金錢ヲ納付セサルトキハ稅關ハ身元保證物ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

稅關貨物取扱人ノ業務上ノ過失ニ因リ損害ヲ受ケタル貨主ハ其ノ債權ニ付他ノ債權者ニ先チ身元保證物ニ依リ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第七條 稅關貨物取扱人ハ取扱料ノ最高額ヲ定メ所轄稅關長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第八條 稅關貨物取扱人其ノ業務ニ關スル法令ニ違反シ又ハ稅關長ノ職權ニ基ケル命令ニ違反シタルトキハ稅關長ハ其ノ營業ヲ停止シ若ハ其ノ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得但シ營業停止ノ期間ハ三箇月以内トス

第九條 免許ヲ受ケヌシテ稅關貨物取扱人ノ業務ヲ行ヒタル者又ハ第五條

第二項ニ違反シタル者又ハ第七條ノ認可ヲ受ケス若ハ認可ニ違反シテ取扱料ヲ取得シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタル行爲ハ稅關貨物取扱人ノ行爲ト看做ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ之ヲ準用ス

附 則

本法ハ明治二十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(子爵渡邊國武君) 唯今報告ニナリマシタ取扱人規則ハ畢竟取扱人ノ基ケル新設ケマシタ法律デ、縷々説明スルニ及バヌ簡單ノモノデゴザイマス、十分ニ審議ヲ遂グラレテ御協賛ヲ願ヒマス

○村田保君 此稅關貨物取扱ノ事ニ附イテ少シ伺ヒタイコトガアル、チト込入ッタ事デアリマスカラ大臣デハ大方御答辯ガムヅカシカラウト思ヒマスカラ政府委員ニ伺ヒマス、此貨物取扱人ノ業務ノコトデスガ、是ハ商法上ニ如何ナル關係ヲシテ居ルカト云ソコトヲ伺ヒタイ、商法ニ於キマスト此運送業ト云フモノガアルガ、此取扱人ト申シマスモノハ單ニ稅關ノ貨物バカリヲ取扱フ、ソレ故ニ或ハ商法ノ方ノ運送取扱人ナドトハ別ノヤウニ見エル、併ナガラ此區域ガドウナッテ居リマスカ、貨物取扱人カラシテ運送業ニ渡スマデノ所ヲバ貨物取扱人ト云フモノハスルノデスカ、或ハ之ヲ渡ス上ニハ矢張商法ノ規定ニ依リマシテ、商法中ニ在リマス所ノ運送業ト云フヤウナモノニ見エルノデスガ、基礎ヲ一つ伺ヒタイ、ソレカラ稅關ノ貨物ト云フモノハ必ズ取扱人ノ手ヲ經ナケレバナラヌヤウデアリマスガ、ソコガ少シドウモ分ラヌ、此法文デ見マスト、或ハ稅關ノ貨物ト云フモノハ、成ルベク取扱人ニサスルト云フヤウニモ見エルガ、ソコガ分ラヌノト、ソレカラ稅關貨物ト申スモノハ一般商人ノ貨物デゴザリマセウガ、或ハ旅客ノ貨物モ這入ッテ居ルノデアリマスカ、或ハ貨主ト云ヒマスカラ或ハ商人ノ貨物或ハ旅客ノ貨物ニモ見エマスル、其邊モ少シ是デハ判然シテ居リマセヌカラ伺ヒタイ、ソレカラ此貨物取扱人ト云フモノモ、是モ一ツノ營業ニ相違ナイ、營業デ見レバ營業稅ヲ拂ハナケレバナラヌモノデハナイカト思フ、サウシマスト營業稅ト云フモノハ、何處デ拂フデゴザリマセウカ、營業稅法ノ第五條ニ「運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス」ト云フコトデゴザリマスカラ、此法ニ依ツテヤリマスカ、或ハ運送業トシテ取扱ヒマスカ、ソコノ處ヲ一ツ伺ヒタイ、ソレカラ此營業取扱人ト云フモノハ貨主ノ名前バカリデナク自分ノ名前デ人ノ貨物ヲ取扱フコトガ出來ルカラ、是ニハ矢張身元保證金ト云フモノガ納ツテ居リマセヌト危險ト思ヒマス、移民取扱人ト云フモノハ一萬圓以上ノ保證ヲ出スト云フ法律ガアリマスガ、是ハ大藏大臣ガ時々其時ニ見テヤルノカ、先ヅソレダケ伺ツテ置キマセウ、モウ一ツ伺ツテ置キマセウ、ソレカラ營業人ガ立替金、稅關ノ立替金ヲスルトカ或ハ取扱料ト云フモノヲ取ルタヌニ、此貨物ト云フモノヲ押ヘルコトガ出來ルカ、是ハ餘程デゴザイマス

○村田保君 稅關貨物取扱人ガ貨主ノタメニ立替金ヲスル、或ハ取扱料ト云フモノヲ拂フガタメニ、ソレヲ拂ハナケレバ貨物ヲ押ヘテ拂フマデ押ヘルコトガ出來ルカ出來ヌカト云フコトデアリマス

○政府委員(日賀田種太郎君) 成ル程、村田君ニ御答致シマス、第一ノ貨物取扱人ノ業務ノ商法ニ對スル關係ハ貨物取扱人ト申シマスルモノハ帝國ノ稅關ニ對シテ貨物ニ關スル申告ヲ爲シ、ソレカラ貨物ヲ引取ル事務デゴザリマシテ、商法ニハ別段ニ規定ガナイ、商法以外ノコトデ、ソレデ商取引デハナインデアリマス、ソレ故ニ商法トハ此貨物取扱人ナルモノハ關係ヲ有サヌノデアリマス、サリナガラ其貨物取扱人ガ稅關ノ手續ヲ了シテ然ル後之ヲ運送スルトカ、若ハ自己ノ倉庫ヘモ持ツテ行ツテ仕舞ツテ置クトカ云フヤウナ、貨物取扱人ノ業務以外ノコトニナリマシテ、是ガ商取引デアリマスレバ、其分ハ商取引ニ這入ルガ、サリナガラ一般ニ貨物取扱人ト云フ業務ハ商法トハ關係ナイコト、思フ

○村田保君 ソコデ本員モサウ考ヘマスガ、貨物取扱人ト云フモノハ貨物ヲ運送業ニ渡ス、ソコデ商法トノ疑義ガアルカト思ヒマスガ……

○政府委員(日賀田種太郎君) 送リ付ケル場合モアルデアリマスル、本人ガ取リニ行ツテモ宜シイ、兩方ニナッテ居ル、尙ホ申上グスマスガ、唯今トテモ貨物取扱人ハアリマス、サリナガラ是ハ唯慣例デ營業ヲ、事業ヲ致シテ居ルモノデ別ニ何等ノ法律上ノ規定モ何モアリマセヌ、ソレ故ニ此法律ニ因ツテ其業務ニ關スル規定ヲ設ケテ、ソレト貨物取扱人ノ業務モ堅固ニシテ貨物取扱人ノ信賴モ堅クシャウト云フ目的デアリマス、ソレカラ尙ホ御尋ノ此貨物ナルモノハ一般ノ商品デアルカ、旅客ノ貨物モ籠ルカト云フコトデアリマシタガ、是ハ重ニ一般ノ商品ヲ申スノデアリマスガ、併シ旅客ノ貨物モ籠リマス、ドチラモ扱フコトハ扱ヒマス、ソレカラ營業稅ノ御尋ハ貨物取扱人ナルモノハ今日既ニ存シテアルデゴザンスル、又將來トテモ此法律ニ依ツテ事業ヲ爲スデゴザリマセウガ現行ノ營業稅法中ニハ適當ニ嵌マル箇條ガゴザリマセヌ、故ニ是ハ營業稅法以外ノモノデアラウト思フ、尙ホ因ニ申上ゲテ置キマスガ、

シタルトキ、之ヲ差押ヘルコトヲ得ルヤ否ヤト云フ問題ハ實ニ茲ニ此法律ニ

ハゴザリマセヌシ考ヘテモ居リマセヌ、是ガ商法ノ商取引デ差押ヘルコトガ出來レバ差押ヘルデゴザリマセウケレドモ、サウ云フヤウナコトハ關稅ノ事務ノ上デハ一向關係ヲ有シマセヌカラ、全ク別問題ニ屬スルト思ヒマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 他ニ御發議ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 議長指名デ宜シウゴザイマスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○子爵谷干城君 此際ニ當リマシテ緊急動議ヲ提出致シマス、ト申シマスルハ此今日仕舞ニ出テ居ル所ノ追加豫算デアリマスガ、是ハ實ニ其差急グト云フコトデゴザリマスカラ、日程ヲ繰替ヘマシテ、此間ニ追加豫算ヲ議スルヤウニ致シタイト思ヒマス

○子爵岡部長職君 贊成

○議長(公爵近衛篤麿君) 谷子爵ノハ此第二十カラ第二十二マデノ日程ヲ先キニヤラウト云フノデアリマスカ

○子爵谷干城君 サウデゴザイマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 谷子爵ノ動議ニ御異議ハゴザリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 然ラバ第二十ノ日程ヲ議題ニ供シマス、明治三十三年度歲入歲出總豫算追加案第一號

○子爵谷干城君 宜シウゴザリマスカ

○議長(公爵近衛篤麿君) 宜シウゴザリマスカ
〔子爵谷干城君演壇ニ登ル〕

○子爵谷干城君 是ハ豫算委員會ニ於キマシテハ格別長イ時日モ要シマセズ又深ク議論ノアツタト云フ譯デモゴザイマセヌ、唯其多少御議論ノゴザイマシタ所ヲ摘ミマシテ御話申上グマス、其他總テ御異論ノゴザイマセヌ所ハ一般束テ御報告ヲ致シマスルコトニ致シマスル、デ此今議題ニナッテ居リマスル所ノ追加豫算ノ甲號ノ部ニ於キマシテ此警察費……内務省ノ部ノ警察費デ此所ガ、ソレト此業務ノ大小ニ應シテ適當ナル保證金ヲ納メシメル積デアリマス、ソレカラ貨物ノ何ニ對シテ、稅ナドニ對シテ依頼者ノタメニ立替金ヲ爲シタルトキ、之ヲ差押ヘルコトヲ得ルヤ否ヤト云フ問題ハ實ニ茲ニ此法律ニ

ハ酷イデハナイカト云フヤウナ御質問ガ起リマシテゴザイマスケレドモ、當局者ノソレヽ説明モゴザイマシタシ、遂ニ然ラバソレデ宜カラウト言フノデ別ニ議論ニナリマスルヤウナ事柄モゴザイマセヌ、デ唯茲ニ於テ其財源ノ所ニ於キマシテ多少御質問モゴザイマシタシ政府委員ノ説明モゴザイマシタ、財源ト申スハ即チ此「豫算」トアリマスル所ノ第一條ノ所ニ三百十一萬七千九百八十九圓六十八錢二厘ト云フ此追加豫算ニ對スル請求……其請求ニ應ズル所ノ即チ財源デ、此事ニ於テ質問ノ方ガアリマシテ政府委員ヨリ色々答辯モゴザイマシタガ、然ルニ能ク聞イテ見マスレバ其財源ノ所モ格別怪シムニ足ラヌ、雜收入ノ色々增加シタモノヲ以テカラニ之ニ充ツルト云フノデアリマスカラ、サシテ不審ニスル程ノ廉モナイト云フ譯デ強テ議論モゴザイマセズニ通リマシテゴザイマスカラ、ソレデドウカ至ツテ差急イデ居ル事柄ニアリマスルカラハ豫算委員ニ於テハ別ニ不都合ト認メマセヌデアリマスカラニ、速ニ御贊同ニナランコトヲ委員長ニ於キマシテモ希望致シマスルデゴザイマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 唯今報告ニナリマシタ全部ヲ問題ニ供シマス

○子爵曾我祐準君 私ハ豫算委員ノ一人デアリマスガ、豫算委員デ此案ヲ議セラレル時分ニ闕席ヲ致シマシタ、唯今委員長ヨリ財源ノコトニ附キ一通り御報告ガアリマシタガドウカ政府委員ヨリ今一應本議場ニ於テ財源ノ所ヲ説明アランコトヲ希望致シマス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 是ハ唯今委員長カラモ御報告ガゴザイマシタガ、三十三年度ニ於キマシテハ唯今年度ノ半デゴザイマスカラ未ダ確タル計數ヲ申上ゲル場合ニハ至リマセヌノデアリマスガ、歳入ノ中ニ色々増加致シマス

ルモノモゴザリマスルシ、又減少致シマスルモノモゴザイマスルカラ、差引ノ上ニ於キマシテ此度要求致シマシタ金額ニ相當スルダケノモノハ別ニ財源ヲ求ムルコトナクシテ支辨シ得ル見込デゴザイマス、此段……

○子爵曾我祐準君 阪谷政府委員ノ御答辯ハ甚ダ御冷淡ナ御答辯ト思ヒマキマシテハ財源ヲ要求致シマセヌノデゴザイマス、此段……

○子爵曾我祐準君 阪谷政府委員ノ御答辯ニハ斯ノ如ク漠然シタル御答ラシテ、衆議院ニ於テハ數ヲ示シテ居リナガラ何故貴族院ニ於テハ數ヲ御示ニナリマセヌカ、ドウ云フ譯デ貴族院デハ斯ノ如ク漠然シタル御答ラシテ、衆議院デハ數ヲ列ベテ御答ニナリマシタガ貴族院ヲ悔リナサルノデアリマスカ、

貴族院ノ者ハ數字ヲ解釋スルコトガ出來ヌト云フ御考デゴザイマスカ、

○政府委員(阪谷芳郎君) 御答致シマス、決シテサウ云フ譯デハゴザイマス、尙ホソレデハ委シク申上ゲマスルガ、今年度ニ於キマシテ歳入ノ増加致シマスル分ハ所得稅、營業稅、海關稅、兌換銀行券發行稅、取引所稅、醬油稅、噸稅、印紙收入經常部及臨時部雜收入前年度繰入金、是等ノ上ニ於キマシテ凡ソ九百五十萬圓バカリノ增加ガゴザマリス、ソレヨリシテ又地租、酒稅、郵便電信收入等ノ上ニ於キマシテ凡ソ六百二十萬圓バカリノ減少ガアラウト考ヘマス、差引キマシタ所デ三百二十萬圓バカリノ增加ガゴザイマス、ソレ故ニ衆議院ニ於キマシテ豫算委員會ノ其質問ニ對シテ答辯致シマシタノハ其中所得稅五十八萬圓、營業稅二十八萬圓、海關稅二百二十九萬圓、此合計凡ソ三百十五萬圓ヲ以テ此支辨ニ充ツルト云フコトニ本員カラ答辯致シマシタ、此段御答致シマス

○子爵曾我祐準君 貴族院ノ豫算會ニ於テ政府委員タル同ジ阪谷君ノ御答ハ唯今ノト違ヒハ致シマセヌカ

○政府委員(阪谷芳郎君) ソレハ速記録ヲ御覽下サレバ御分リニナリマス、本員ガ申シマシタノハ歳入差引ノ上ニ於テ是ダケノ増加ガアル、斯ウ云フコトヲ申シマシタノデゴザイマス

○子爵曾我祐準君 政府委員ノ阪谷君ハ貴族院ノ豫算會ニ在ラテハ此收入ノ……雜收入ニハ分捕金竝ニ米ヲ入レタト云フコトヲ仰シヤツタヤウニ承リマシタガ、果シテサウ云フコトハ仰シヤラナインデアリマスルカ、申サレタノデアリマスルカ

○政府委員(阪谷芳郎君) 臨時部雜收入デアリマスカ

○子爵曾我祐準君 ハイ

○政府委員(阪谷芳郎君) 臨時部雜收入ニ色々ノモノガアルト申シマシタ、ルモノモゴザリマスルシ、ドウゾ暫ク御止リヲ願ヒマス、阪谷君、

御止リヲ願ヒマス、阪谷君御止リヲ願ヒマス

○久保田讓君 私モ此事ニ附イテチヨット申シマスガ、私モ豫算委員ノ一人デアリマスガ、先刻谷委員長カラ報告ニナリマシタ通ニ貴族院ニ於テ大藏省ノ政府委員ガ説明サレタニハ此財源ト云フモノハ雜收入ガ重モナモノデアル、即チ谷委員長モ其通ノ報告デアル、本員モ其通ニ承ッタノデアル、併ナガラ衆議院デ説明セラレタノハ海關稅ガ重モニナツテ居ル、其處ガ甚ダ齟齬致シテ居リマス、其點ヲ明ニ承リタイト思ヒマス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) ドウ云フ御問デアリマスカ、ドウゾモウ一應……

○久保田讓君 貴族院ニ於テ大藏省政府委員ノ阪谷君ノ説明セラレタノハ雜收入ノ増加ガ重モナモノデアル、是ガ即チ追加豫算ノ歳出ニ充テル所ノ重モナル財源デアルト云フコトヲ説明セラレタ、即チ先刻委員長カラモ其通ノ御報告ニナッテ居リマス、併ナガラ是ハ祕密ニ屬スルコトデアッテ祕密會ニシテ速記ヲ省イテ其事ヲ御答辯ニナッテ居ル、ソレデ細カイコトハ爰デ申サレナイガ、兎ニ角雜收入ト云フモノガ歳入増加ノ重モナルモノデアル、是ヲ以テ財源ニ充ツルト云フコトヲ説明ニナッタノデアル、トコロガ衆議院ノ豫算委員會ニ於テ御答ニナッテ居ルノトハ違ツテ居ル、海關稅ノ増加ガ二百三十萬圓デアル、所得稅ガ五十八萬圓デアル、營業稅ガ二十八萬圓デアル、合セテ三百十五萬圓ニナル、是ガ財源デアルト云フ御答デアル、其處ガ大層齟齬ヲ致シテ居リマス、其事ヲ……。

○政府委員(阪谷芳郎君) 本員ガ豫算委員會ニ於テ答辯致シマシタノハ即チ今會我子爵ノ御問ニ御答シマシタ通歲入增減差引ノ上ニ是ダケノ増加ガアルト云フコトヲ申上グマシタノデゴザイマス、其處尙ホ速記ヲ止メテ祕密會議中ニ御答辯致シマシタコトニ附イテハ御尋デアリマスレバ祕密會ニナリマスレバ御答辯ヲ致シマス

○子爵曾我祐準君 其祕密會ニ附イテハ私ハ甚ダ疑ヒマス、衆議院ノ速記錄ニハソレト同様ナ意味ノモノガ載ツテ居リマス、朗讀致シマス

分捕馬蹄銀是ハ三百十五万兩バカリノモノデ、是ハ軍隊ノ報告ニナッテ居リマス、此内百九十九万兩バカリガ大藏省ノ方ヘ引繼ニナッテ居リマスガ、此分捕銀ノ始末ノコトハ未ダ何トモ處分ト云フコトノ決シタコトガゴザイマセヌ、今日デハ軍隊カラ引繼イダモノハ其儘歳入ニ受ケテ居ル形ニナッテ居リマス云々

ト云フコトニナッテ居リマス、衆議院ノ速記錄ニハ此事ガ明ニサレテ居ル何ガ故ニ貴族院デハ分捕銀ノコトヲ公然ト述べラレヌノデアルカ、此事ハ大イナ

ル疑問デアル、衆議院デ斯ノ如ク立派ニ此事ヲ言ハレテ居ル以上ハ祕密會ヲ要セズ此事ヲ御説明ニナッテ宜カラウト思フ

○政府委員(阪谷芳郎君) ソレハ増稅法案ノ委員會ノ速記錄デゴザイマス……

〔子爵曾我祐準君「案ハ違ツテモ同ジコトダ」ト述フ〕

私ノ申シマスルノハ豫算委員會ニ於テ速記ヲ止メテ答辯シタコトデアリマス

ルカラ其事ニ附キマシテハ祕密會ニ於テナラバ御辯明ヲ致シマス

○子爵曾我祐準君 私ハ祕密會ノ必要ハアルマイト思ヒマス、此分捕銀ノ始末ハ明ニ衆議院ノ速記錄ニ載ツテ居ル、何ノ必要ガアッテ請求ヲサレマスカ、其理由ヲ承リタイ、サリナガラ祕密會ヲ請求ニナリマスル其理窟ガ分リマスレバ贊成シマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 曾我子爵ノ賛成ハ何ノ賛成デゴザイマスカ

○子爵曾我祐準君 政府委員ハ祕密會ヲ要求シ得ルモノデアルカラ、其道理ガ分リマスレバ宜シウゴザイマセウ、サリナガラ此理由ナラバ祕密會ノ必要ハナイト思ヒマスカラ、其理由ヲ承リタイ

○政府委員(阪谷芳郎君) 政府カラ要求シタノデアリマセヌ、豫算委員會デ速記ヲ止メテ問答シタコトデアリマスカラ、此處デ其事ニ附イテノ御問答ナラ祕密會ニ於テ致シマセウ、今日ハ分捕銀ノ方ノコトニ附キマシテハ政府ハ辯明スル時機デナイト思ヒマス

○子爵曾我祐準君 併ナガラ衆議院デ此事ヲ明言サレタトキハ時機ガ宜シカツタ今日ハ時機ガ惡ルイト斯様ニ仰シヤルカ

○政府委員(阪谷芳郎君) 併ナガラ衆議院ノ議場ニ於テ明言シタコトハアリマセヌ、増稅案ノ委員會デハ……

○子爵曾我祐準君 案ハ違ヒマスケレドモ 委員會ノ速記錄ニ載ツテ居リマス

○政府委員(阪谷芳郎君) ソレハ委員會ノ話

○子爵曾我祐準君 委員會ナラバ公ケニシテ宜シイ、斯ウ云フ御考デスカ

○政府委員(阪谷芳郎君) 委員會ニ於テハ申シマスルコトモアリマセウガ當議場ニ於テハ申シマスル時機デナイト思ヒマス

○子爵曾我祐準君 衆議院ノ委員會ニ於テハ言フベキ時機デアッタガ、貴族院デハ言フベキ時機デナイト思ヒマス

○政府委員(阪谷芳郎君) 増稅案ノ委員會ガ開ケマシタ時分ナラバ又申上げマス

○久保田讓君 私ハ兎ニ角速記錄ニ載ツテ居ル上デハサウ貴族院ノト衆議院ノトハ齟齬シテ居ラヌ、唯速記ヲ止メテ祕密會デ言ハレタト云フ、ソコガ齟齬ヲ致シテ居リマスカラ政府ハ其齟齬ヲシタ所ヲ御取消ニナルガ宜イ、サウスレバ豫算委員ハ全體雜收入ガ動カヌト云フコトヲ認ヌテ居ル、豫算委員長モ

公然ニ、デ報告セラレテ居ル、ドウカ衆議院ノ説明ト齟齬致シテハ不都合ト思ヒマスカラ衆議院デ言ハレタ答辯ノ通ニナルガ宜イト思フ、ドウゾ政府ハ

ソレダケヲ御取消ニナルヤウニ願ヒタイ

○政府委員(阪谷芳郎君) 政府ノ答辯ハ決シテ齟齬致シテハ居ラヌノデアリマスカラ取消ノ必要ハナイト御答致スヨリ仕方アリマセヌ、若シ祕密會ヲ御開キニナリマスレバ委細ノ事ハ其節申シマス、決シテ政府カラ祕密會ヲ要求致ス譯デハゴザイマセヌ

○議長(公爵近衛篤麿君) 本案ニ附イテ決ヲ採リマス、第二十ヨリ第二十二マデノ日程、之ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 本案ニ附イテ決ヲ採リマス、第二十ヨリ第二十二マデノ日程、之ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵近衛篤麿君) 過半數ト認メマス、ソレデ日程ハ元ニ戻リマシテ第三デアリマスガ、第三ヨリ第十八マデハ關聯シタル問題ト思ヒマスカラ一括シテ問題ニ供サウト思ヒマス、御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 第三ヨリ第十八マデ、朗讀ハ省略ラシマス

〔左案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

酒造税法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十四年二月十九日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

酒造税法中左ノ通改正ス

第一條中「酒精ノ六種トス」ヲ「ノ五種トス」ニ改ム

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種 酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒、味

第二種 酒精分四十五度以下ノ燒酎

第三種 酒精分四十五度以下ノ燒酎

前項ニ於テ酒精分二十度以下ナルモノニシテ酒精分三十度以下ナルモノ

ニ含有スル〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第五條第一項中「酒精」ヲ削ル

第七條中「徵收スルコトヲ得」ヲ「徵收ス此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得」ニ改ム

第十九條 収稅官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類又酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 免許ヲ受ケシテ酒母、醪又ハ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ直ニ造石稅ヲ賦課徵收スルコトヲ妨ケス

第二十三條 酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條ノ二 免許ヲ受ケシテ酒母、醪ヲ製造シタル者又ハ第二十一條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係ル酒母、醪ノ總石數ニ對シ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ第六條ノ納期ニ依ラス直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十三條ノ三 削除

第二十四條中「三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス」ヲ「五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改ム

第二十五條中「三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス」ヲ「五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改ム

第二十六條中「三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス」ヲ「五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改ム

第二十七條中「十圓」ヲ「三十圓」ニ「五百圓」ニ改ム

第二十八條中「五圓」ヲ「十圓」ニ「三百圓」ヲ「五百圓」ニ改ム

第二十九條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第三十九條中「三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ酒類ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス」ヲ「五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ酒類ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附 則

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒類ニハ舊稅率ヲ適用ス

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十四年二月十九日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

酒精及酒精含有飲料稅法案

酒精及酒精含有飲料稅法

第一條 酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス

第二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分

分中純酒精ノ容量一箇ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

第四條 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄實ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス

第五條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス

第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリト認ムルトキハ政府ハ直ニ造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ得

第八條 同一製造場内ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石稅ヲ課セス前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ検定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 製造石數ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成シタル時實測シテ

之ヲ査定ス但シ前條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此ノ限ニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料若ハ證憑物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石稅ヲ課スニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石稅ヲ課ス

一 他人ニ譲渡サレタルトキ
二 公賣セラレタルトキ

三 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラレタルトキ

第十一條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ譲渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條 収稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 免許ヲ受ケシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ上ルコトヲ得ス

第十六條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス第十九條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者

其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者
其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ息リタルト

キハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十一條 収稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒
ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰
金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱
發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
第二十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル
者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關
シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十四條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ製造ヲ廢止シタル者及ヒ其ノ
相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ
附 則

第二十五條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於
テ製成シタル酒精ニハ舊稅率ヲ適用ス

第二十六條 混成酒稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混
成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

第二十七條 本法若ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ臺灣ニ施行スルマ
テハ臺灣ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ本法施行地ニ
移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シ
タル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス
前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ
沒收ス

沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付
候也
明治二十四年二月十九日
貴族院議長公爵近衛篤麿殿
第一條 帝國內ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料
ヲ外國ニ輸出シタル者ハ左ノ割合ニ依ル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコ
トヲ得但シ葡萄實ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ハ此ノ限ニ在ラス
一清酒、濁酒、白酒、味淋及甘諸ヲ原料トシテ製造シタル燒酎

明治二十四年二月十九日

衆議院議長片岡健吉

沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス
第一條 沖繩縣内ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國
内ノ他ノ地方へ移出スルトキハ其ノ石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ出港稅ヲ

課ス

第一種 清酒、濁酒

一石ニ付 金十五圓
一石ニ付 金十六圓

第二種 燒酎

一石ニ付 金十五圓
一石ニ付 金十六圓

攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中純酒精ノ容量第一種ニ在リテ
ハ二十、第二種ニ在リテハ四十五ヲ超ユルモノハ前項ノ割合ニ依ラス
石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ酒類
ノ石數ニ應シ出港稅ヲ課ス

前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七
ノ比重ヲ有スル酒精トス

第六條中「三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其ノ酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其
ノ代價ヲ追徵ス」ヲ「五倍ノ罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改ム
メ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ酒類ハ之ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其ノ代價ヲ追徵ス

第七條中「五圓」ヲ「十圓」ニ「五十圓」ヲ「百圓」ニ改ム
第八條中「二圓」ヲ「三圓」ニ「二十圓」ヲ「三十圓」ニ改ム

附 則

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒類、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付
候也
明治三十四年二月十九日
衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿
第一條 帝國內ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料
ヲ外國ニ輸出シタル者ハ左ノ割合ニ依ル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコ
トヲ得但シ葡萄實ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ハ此ノ限ニ在ラス
一清酒、濁酒、白酒、味淋及甘諸ヲ原料トシテ製造シタル燒酎

一燒酎

一石ニ付 金十五圓
一石ニ付 金十六圓

一 麥酒(ビール) 一石ニ付 金七圓

一 酒精ヲ含有スル飲料ニシテ前各号ニ掲ケサルモノ及酒精

一 石ニ付 原容量百分中純酒精ノ容量一百箇每ニ 金七拾五錢

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ輸出港税關ニ提出スルコトヲ要ス

一 製造場所轄稅務署ノ交付シタル納稅證明書

二 輸出免狀

三 外國輸入港税關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證ス

ヘキ書類

第三條 納稅證明ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者ハ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ以テ前條納稅證明書ニ代フルコトヲ得

附 則

第四條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ之ヲ適用ス

第五條 明治二十一年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ仍該勅令ヲ適用ス

醫藥用、工業用酒精免稅法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十四年二月十九日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

醫藥用、工業用酒精免稅法

第一條 麥酒(ビール)ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス

第二條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘン

第三條 麥酒稅ハ麥酒一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

第四條 麥酒稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス

第五條 麥酒ヲ製造スル者麥酒稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリト認ムルトキハ政府ハ直ニ麥酒稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得

第六條 麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒稅ヲ課ス

第七條 災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

使用後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 酒類又ハ其ノ他ノ飲料製造用ニ供スル酒類ニハ前條ヲ適用セス

第三條 第一條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ造石稅又

使用後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 酒類又ハ其ノ他ノ飲料製造用ニ供スル酒類ニハ前條ヲ適用セス

第三條 第一條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ造石稅又

ハ輸入稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

附 則

第四條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ニ之ヲ適用ス

第五條 明治三十一年法律第二十七號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ノ稅金下戻ニ關シテハ仍該法ヲ適用ス

麥酒稅法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十四年二月十九日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

麥酒稅法

第一條 麥酒(ビール)ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス

第二條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘン

第三條 麥酒稅ハ麥酒一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

第四條 麥酒稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス

第五條 麥酒ヲ製造スル者麥酒稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリト認ムルトキハ政府ハ直ニ麥酒稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得

第六條 麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒稅ヲ課ス

第七條 災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ譲渡

シ質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ

詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ
第十條 収稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル麥酒、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 免許ヲ受ケヌシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十二條 麥酒ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ查定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條 麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 収稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十條 麥酒製造ヲ廢止シタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以内ニ於テ製造場一箇所毎ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

砂糖消費稅法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及付候也

明治三十四年二月十九日

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

衆議院議長片岡健吉

砂糖消費稅法

第一條 内地消費ノ目的ヲ以テ製造場 稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條 製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ

第一種 砂糖色相和蘭標本第八號未滿ノ砂糖及糖蜜

百斤ニ付金一圓六十錢

第二種 砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖

百斤ニ付金二圓二十錢

第三種 砂糖色相和蘭標本十五號以下ノ砂糖及糖水

百斤ニ付金二圓二十錢

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十號未滿ノ砂糖及糖水

百斤ニ付金二圓八十錢

第四條 前條ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スル

トキハ六箇月以内消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 内地消費ノ目的ニ非スシテ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月内ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト

看做シ擔保ヲ以テ消費稅ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第六條 消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得シテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條 収稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 政府ノ承認ヲ得消費稅ヲ課セラレタル砂糖又ハ糖蜜ヲ原料トシテ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタル者ハ原料トシタル砂糖又ハ糖蜜ノ消費稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

製造後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 収稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、

戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十八條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

關稅定率法及同法附屬輸入稅表中改正法律案右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十四年二月十九日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

關稅定率法中左ノ通改正ス

第一條第二項 削除

輸入稅表中左ノ通改正ス

第三欄中「從價稅率」ヲ「從價及從量稅率」ニ改ム

第五條第一項第十號但書中「煙草類酒類」ヲ「煙草類、酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料」ニ改ム

三 六 糖菓類

甲 菓子

乙 砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ以テ貯藏シタルモノ

四、〇 二、五

六九 六九ノ一 酒精（アルコール）

甲 メチレーテットアルコール
（攝氏驗溫器十五度ノトキニ於テ原容量以下ノモノ）

每リートル四拾貳錢

六九ノ一
百分中メチレーテットアルコールノ容積十五

一、〇

乙 同十五以上ノモノ

六九ノ二 各種丁幾（阿片丁幾ヲ除ク）

每リートル四拾貳錢

六九ノ二 各種丁幾（阿片丁幾ヲ除ク）

二七八 石油

每ガルロン參錢貳厘

甲 鐵入ノモノ

乙 鐵入ニアラサルモノ

同 貳錢

三七九 卷煙草及小卷煙草

三八〇 紙卷煙草

三八一	喫煙草	一五、〇
三八二	刻煙草	一五、〇
三八四	其ノ他諸製煙草	一五、〇
三八五	麥酒及黑麥酒	每リートル拾錢四厘
三八六	削除	一〇、〇
三八八	支那酒(釀造シタルモノ)	一〇、〇
三八九	削除	一〇、〇
三九〇	削除	一〇、〇
三九一	削除	一〇、〇
三九二	削除	一〇、〇
三九三	清酒	一〇、〇
三九四	削除	一〇、〇
三九五	削除	一〇、〇
三九六	削除	一〇、〇
三九七	削除	一〇、〇
三九八	削除	一〇、〇
三九九	其ノ他各種ノ酒類	一〇、〇
	每リートル貳拾七錢五厘	一〇、〇
	但シ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ 純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量五十以上一ヲ増ス每ニ十「リ一 トル」ニ付四錢ヲ加フ	一〇、〇
	附則	一〇、〇
	本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス	一〇、〇
	〔國務大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル〕	一〇、〇
○國務大臣(子爵渡邊國武君)	各種ノ稅法案提出ノ必要ナルコトハ先般内閣 總理大臣ガ本院ニ出席致サレタ際ニモ一言致シテ居ル 次第ゴザイマスガ、 就テハ其必要的ニ使用セラル、目的ハ説明書ニモ記シテアリマスルコトデゴ ザイマスカラ最早別段縷々陳述ハ致シマセヌ、此案ハ北清事件ガ起リマシテ 議會ヲ開クマデノ處分ハ當時ニ於テヤッテ居リマスルコトハ已ムヲ得ヌコト ニコトデアツテ、既ニ前内閣ニテハ八月ノ頃ニ臨時議會召集スル心組デアッタ ヤウニ見エテ居リマスガ、彼是ノ事情デ之ヲ實行スルニ及バズシテ内閣ハ更 迭ニナリマシタガ、最早現内閣ノ成立チマシタ頃ハ此通常議會ノ會期切迫ニ ナリマシテ、別ニ臨時會ヲ開クノ必要ヲ見マセヌデ、今日ノ議會ニ提出スルコ トニナリマシタ、ドウゾ十分ノ御審査ヲ遂ゲラレテ御協賛アランコトヲ希望 致シマス	一〇、〇
○男爵紀俊秀君 過日總豫算ノ審査期限ヲ定ムル前ニ當リマシテ總理大臣カ ケラ同ヒタイ	一〇、〇	

ラ岡部子爵ノ御問ニ對シテノ御答ニ財政整理、行政刷新ト云フコトヲヤル考
ヘデアルト云フコトヲ述ベラレマシガ、是ハ略ドレ程ノ日數ヲ要シテ財政
整理ト云フコトガ出來ルト云フ御見込デアリマスカ、總理大臣ガ御出席ガナ
ケレバ大藏大臣若クハ内務大臣カラデ宜シウゴザイマスカラ略シ其御見込ダ
ケラ同ヒタイ

○議長(公爵近衛篤麿君) ソレハ少シ問題外デハゴザイマセヌカ

○男爵紀俊秀君 是ハ増稅ニ關聯スルト私ハ思ヒマスカラ……關聯シタ問題
デアリマスカラ此議案ヲ議スルトキニ當ツテ伺ツテ置キタイ

○國務大臣(子爵渡邊國武君) 御答ヲ致シテ宜シウゴザイマスカ

○國務大臣(子爵渡邊國武君) 御答ヲ致シテ宜シウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 宜シウゴザイマス

〔國務大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(子爵渡邊國武君) 唯今ノ御問ニ御答致シマスガ、是ハ昨今創設
ヲ致シテ居ル際デゴザイマシテ、未ダ決定ニモ至リマセヌカラシテ確タルコ
トハ御答ハ出來マセヌガ、精々是ハ取急イデヤル積デアリマス、ソレハナカナ
カ廣汎ナコトガアリマシテ、サウ半年ヤ一年ニ成效ガ出來ルトハ認メマセヌ、
何レ組織ノ成ツタ上デ更ニ全體ノ方向ヲ定メテ順序ヲ立ツタ上デナイト確タル
コトハ申サレマセヌガ、併シ本大臣等ガ期シテ居ル所ハ少クトモ次ノ議會マ
デニハ幾分カ其財政整理、行政整理ノ結果ヲ此豫算ノ上ナリ、又組織ノ上ナ
リニ現スコトヲ希望シテ努ムル積デアリマスガ、是レ亦イツ出來得ルヤ否ヤ
ト云フコトハ確定スルコトハ出來マセヌガ、成ルベタ此順序ヲ取ル積デアリ
マス、故ニ此處デイツ頃ニ必ズ結果ヲ告ゲルト云フコトハ、ハツキリ御答ハ出
來マセヌ

○村田保君 本員ハ此增稅案ノコトニ附キマシテ可否ノコトハ今日ハ述ベマ
セヌ積デアリマスガ、何レ第二讀會ニ付セラレタ後ノコトデアリマスガ、併
シ大體ノコトニ附キマシテハ別ニ意見ハ述ベマセヌガ、修正ニナリマシタ結
果ニ附キマシテ政府委員ニデモ御尋ラシタイ、此衆議院ニ於キマシテ修正ニ
ナリマシタコトハ餘程區々ナツテ居リマスガ、是ハドウ云フモノデゴザイマ
セウカ、政府ハ是マデ斯ノ如キ、一方デハ修正シ、一方デハ修正シナイト云
フコトガアリマスガ、是デモ政府ハ宜シイト云フ御考デアリマスカ、申シテ
見マスレバ此酒造稅法ノ第四條ニハスノ如ク第一種ト云フモノハ原案デハ
ハスウト云フ分量、ソレカラ第三種トシテ酒精云々トスウ修正ニナリマシタ、

〔清酒濁酒白酒味淋〕トアリマスガ、「酒精分二十度以下」云々、ソレカラ第二

ソレカラ第十四條「收稅官吏ハ命令ノ規定」トゴザイマスノヲ「酒精」云々ト修正ニナリマシタ、先づ此修正ガ土臺ノ修正ニナツカト思ヒマスルト、其外ノ修正ヲ見マシテモ、沖繩縣ノ稅則ヲ見テモ、其他ノ稅則ヲ見テモコ、ガ片方デハ修正ニナリ、片方ハ原案ノ儘ニナツテ居ル、様ニナツテ居リマス、是ハドウ云フノデアリマスカ、或ハ酒精ノ方デハ「酒精及酒精含有飲料稅法」トゴザイマスガ、此方ヲ見マスルト、第十四條ニ「收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ」ヲ見マスルト、此通第一條ハ原案ニハ「清酒白酒味淋」ト云フヤウニナツテ居リマシテ、サウシテ酒造稅法ニハ委シク書イテアル、第三項ニモ此通、酒造稅法ノ方デハ第三種トシテアルノヲ沖繩縣酒類出港稅則ノ方デハ原案ノ儘ナル、或ハ「純酒精」ト酒造稅則デハアリマスルノガ「酒精分」トナツテ居ル、所ガ沖繩縣ノ方ヲ見マスルト矢張「純酒精」トナツテ居ル、是ハチヨットモ修正シリマスカ、ソコヲチヨット伺ッテ置キタイ、是ハ大體ニ關シタコトデナイケレドモ本員ノ見マス所デハ餘リ杜撰ナ修正デハナイカト思ヒマス

〔政府委員目賀田種太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(目賀田種太郎君) 酒精分モ同ジコトデアリマス、リマスカ、ソコヲチヨット伺ッテ置キタイ、是ハ大體ニ關シタコトデナイケレドモ本員ノ見マス所デハ餘リ杜撰ナ修正デハナイカト思ヒマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 酒精分モ同ジコトデアリマス、

○政府委員(目賀田種太郎君) 酒精分、純酒精ト云フノハ同ジコトデアリマス、差支ヲ見マセヌ

○村田保君 片方デハ何ゼ修正致シマシタカ、ソンナラ原案ノ儘ニシテ置イタラ宜カラウ

○政府委員(目賀田種太郎君) 酒精分モ同ジコトデアリマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 酒精分、純酒精ト云フノハ同ジコトデアリマス、差支ヲ見マセヌ

○村田保君 片方デハ何ゼ修正致シマシタカ、ソンナラ原案ノ儘ニシテ置イタラ宜カラウ

○政府委員(目賀田種太郎君) 酒精分モ同ジコトデアリマス

○村田保君 大變意味ノ違フ所ガアル、全體ニ附イテハ意見ガアルカラ、ドウデモ宜イガ、大變意味ガアル、販賣ト云フコトガアルノデ……

○政府委員(目賀田種太郎君) 何デスカ

○村田保君 十九條ノ終ノ所ヲ見ルト、コチラニ販賣ト云フコトガアレバ片方ニモナクテハナラヌガ、是ハドウ云フ譯デ拔ケテ居リマスカ、是ハ瑣々タルコトデアリマスガ、是モ修正致スガ宜カラウト思ヒマス、政府ハソレデモ同ジコトデアルト云フ、實ニ詰ラヌデハアリマセヌカ

○政府委員(目賀田種太郎君) 何ヲ御尋ニナリマシタカ、能ク聽エマセヌ

○村田保君 モウソソナコトハドウデモ宜イガ、政府モモウ少シ目ヲ明ケテ見タラ宜カラウト思ヒマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 大體同ジコトデアルカラ差支ナイト思ヒマス

○村田保君 ソレナラ宣シウゴザイマス

○子爵三島彌太郎君 唯今村田君カラ御尋ニナリマンタコトハ私モ矢張同感デゴザイマスガ、此第四條ヲ衆議院ノ修正通ニ政府案ノ二種ヲ三種トシマスルト、此酒造稅法ノ第十二條モ改正シナケレバナラヌ、即チ三項ニ「腐敗シタル酒類」云々トアリマスガ、是モ素ヨリ修正シナケレバ同ジ酒造稅法ト衝突スルダラウト思ヒマス、其外ニ段々斯ウ云フ點モアリマスガ、是ハ此儘デハイケマイト思ヒマスガ、矢張是デモ差支ナイ御考デアリマスカ

○政府委員(目賀田種太郎君) 十二條ノ字デスカ、何ノ方デスカ

○子爵三島彌太郎君 此第三項ニ「腐敗シタル酒類ニシテ蒸溜酒ノ製造ニ供スルモノ」ト云フコトガゴザイマス、サウスルト此第三種ノ製造ニ供スルモノハ、矢張免除セラレナイノデゴザイマスカ

○政府委員(目賀田種太郎君) 酒造稅法デスカ

○子爵三島彌太郎君 ハイ

○政府委員(目賀田種太郎君) 是ハ今ノ修正ノ通デ實際差支アリマセヌ

○子爵三島彌太郎君 私ハモウ一ツ伺ヒタウゴザイマス、此麥酒稅法ノ造石稅ヲバー石七圓ト御定メニナリマシタノハ、何ヲ以テ標準トセラレマシタカ、伺ヒタウゴザイマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 御答シマスルガ、是ハ他ノ酒類ナドノ略、權衡ヲ見マシテ斟酌致シマシタ譯デアリマス、ソレハ委シク申上ゲマスト云フト、清酒ハ唯今平均ノ代價ガ三十圓程ニナツテ居リマス、ソコデ麥酒ハ先ヅ一石二十五圓近邊ニナツテ居ルノデ平均ガ……ソコデ假ニ清酒ノ平均ノ價額ガ三十二圓ト見マシテ十五圓ノ稅デアリマスルカラソレ等ノ權衡、其他又外國ノ麥酒ナドノ權衡、彼此ノ權衡ヲ斟酌シテ率ヲ定メマシタノデゴザイマス

○子爵三島彌太郎君 唯今他ノ酒類ト權衡ヲ保ツタメト仰セラレマシテゴザイマスルガ、サウ致シマスルト是ハ是マデノ麥酒ト他ノ酒類トノ割合デナク、更ニ御考ニナツテ權衡ハ斯ウデナケレバナラヌト云フコトヲ御考ニナツクコトデアリマスガ、外國ニ一石七圓ニ當ル稅率ガアルノデゴザイマスルガ、外國ニ一石七圓ニ當ル稅率ガアルノデゴザイマスカ、其點ヲ伺ヒタウゴザイマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 唯今申シタノハ外國ノ麥酒ノ關稅デアリマス、ソレガ既ニ唯今二割五分ニナツテ居リマス、ソレデ此度ソレガ三割五分三厘程ニ當ル増稅ニナル、大抵此關稅ノ事ハ略、ソレ等ノ權衡ヲ見ナケレバ

ナリマセヌカラ、其事ヲ指シテ申シマシタ

○村田保君 ドウモ政府委員ハ同ジコトダト言ハレマスカラ、尙ホ是ダケヲ
確メテ置キタイ、酒稅ノ方デゴザイマスト、燒酎ト云フモノハ酒精分四十五

度以下ノモノトアル、沖繩縣ノ方ヲ見マスルト、沖繩縣ノ方ハ修正シマセヌ

ト四十度以下ト爲ル、サウシマスト沖繩縣ノ燒酎ト酒造稅法中ノ燒酎トハ、燒
酎ガ達ヒマスカ、ソレヲチヨット伺ヒマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 一應村田保君ニ御尋シマスルガ、沖繩縣ノ燒
酎ト内地ノ燒酎ト度ガ達フト云フノハ

○村田保君 燒酎ノ度ガ達ヒマスカ、ドウ云フモノデアリマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 達ツテ居リマセヌ、ドレヲ御指シニナル……

○村田保君 沖繩縣ノハ四十度ヲ超エルモノ、此方ノハサウデナイ四十五度
以下ト修正ニナツテ居リマス

○政府委員(目賀田種太郎君) ソレハ理由ガアル、沖繩縣ノ分ハ四十度ヲ超
ユルモノハサウ云フ課稅ニスル、片方ノハ四十五度ノ標準ニスル、物ガ達フ
ノデアリマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 課稅ノ標準ガ達ヘテアルノデス

○村田保君 ソレナラ何故原案ニ四十度ト書イタノデス

○政府委員(目賀田種太郎君) 何方デス

○村田保君 直ツテルデヤアゴザイマセヌカ

○政府委員(目賀田種太郎君) ソレハ直ツテ居リマス

○村田保君 直ツタノハ燒酎ガ達フノデスカ

○政府委員(目賀田種太郎君) 私ハ御尋ガ能ク分ラヌ、ドウ云フ譯デスカ

○議長(公爵近衛篤麿君) モウ委員ノ選定ニ移ツテ宜シウゴザイマスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(公爵近衛篤麿君) ソレデハ此第三ヨリ第十八ニ至ルマデノ議案、皆

同一委員ト云フコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○子爵岡部長職君 委員ノ數ハ十五名トシ、其指名ハ議長ニ御任せ致シマス
○子爵小笠原壽長君 賛成

○子爵錦織教久君 賛成

〔其他費成〕ト呼フ者多シ

○議長(公爵近衛篤麿君) 岡部子爵ノ委員ノ數ヲ十五名トシテ議長ニ委託ス
ルト云フ御說ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(公爵近衛篤麿君) 然ラバ其通決シマス、關稅特別監視地域ニ關スル
法律案、政府提出、第二讀會

○村田保君 是ハドウカ一條毎ニ問題ニ付セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤麿君) ソレデハ第一條ヲ問題ニ供シマス

○村田保君 本員ハ此第一讀會ニ於キマシテ、此關稅特別監視地域ノ事ニ附
キマシテ段々意見ヲ述べテ居リマス、政府委員カラモ段々答辯ガゴザイマシ

タガ、此第一條ヲ見マスノニ、此一條ハ最モ此案ノ病ニナル案デヤナイカト思
フ、ソレデソレノミナリマセズ、一條ニゴザイマスノハ、稅關官吏ハ職務上必
要ト見タナラバ海岸ヨリ一里以内ノ地域ニ於ケル私人ノ土地又ハ倉庫ヘ立入
ルコトガ出來ル、ソレハ承諾モ何モ得ナイデ夜中モ何モ勝手ニ人ノ倉ヲ

バ明ケルコトガ出來ルト云フノガ第一條ノ主意ニナツテ居ル、所ガ此一條ヲ
能ク見マスルト云フト、ソレハ關稅法ノ方デ隨分是ダケノ補ガ十分附イテ居

ル、今日ノ關稅法ニ於キマシテ或ハ犯則者等ヲ見マスレバ、其處ヘ行ツテ檢
查ヲスルコトモ出來ル、ソレハドウ云フコトヲ得」ト云フコトガアル、既ニ此

關稅法ノ五十八條ニハ「稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査若ハ封鎖
シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得」ト云フコトガアル、

關稅法ノ五十八條ニ於キマシテ倉庫其他貨物藏置場ヲ開クコトガ出來ル、又

六十一条ヲ見マスルト云フト「關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服

アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ文書ヲ以テ稅關長ニ異議ノ申
立ヲ爲スコトヲ得」ト云フコトガアル、ソレカラ六十八條ヲ見マスルト云フト

「稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得」ト云フコト
ガアル、ソレカラ九十一條ヲ見マスルト「臨檢搜索及物件差押ハ日沒ヨリ日

出マテノ間之ヲ爲スコトヲ得ス」ト云フコトガアル、ソレデ此稅關官吏ト云フ
モノハソレ故ニ今日デモ縱令海岸カラ一里以内以外ヲ問ハズ何時デモ此所ニ

犯則者ガアルト思ヘバ何時デモ行ツテ検査ヲスルコトガ出來ルノデス、今日ノ
關稅法ニ於キマシテ、サウシテ其處分ニ對シテ不服アルトキハ訴願ノ途モ開

イテアルシ、又日出前ダノ日没後ハ人ノ倉ナドヲ明ケルコトハ出來ヌト云フ
犯則者ガアルト思ヘバ何時デモ行ツテ検査ヲスルコトガ出來ルノデス、今日ノ
關稅法ニ於キマシテ、サウシテ其處分ニ對シテ不服アルトキハ訴願ノ途モ開

コトハ土地收用法デモ出來ナケレバ、關稅法デモ出來ナケレバ、國稅犯則者處分法デモ出來ナケレバ、何レノ法ト雖モ人ノ安眠シテ居ル所ヘ行ッテ開イテモ宜イト云フ法律ハ何處ノ國ヘ行ッテモ、サウ云フ法律ガアルモノデハナイ、然ル處此法律デハ先日モ尋子テ見マスレバ是ハ倉ヘ立入ルコトガ出來ルノダカラシテ時間ニ制限ガナイ、夜分デモ構ハスト云フコトデ、サウ云フ法律ト云フモノハ恐ラクアルモノデナイ、又ドウモ先日モ本員ガ惡口ノヤウデゴザイマスケレドモ此法律ト云フモノハ實ニ強盜デモ働く者ニハ便利ニ相違ナイ、何故ト云ヘバ己ハ稅關官吏ダカラ明ケロト云ヘバ夜半デモ明ケルコトガ出來ル、併ナガラ是ハ良民ニ對シテハ如何デアルカ、實ニ不安心極タモノデアル、是ハ法律ニ於テ日出前日沒後ハ行フテハナラスト云フコトガゴザイマスレバ、ソレハ夜半ニソンナ者ガ來テモ明ケヌト云フコトガ出來マスガ、併ナガラ法律ニ於テ是ガ出來ルト云フ途ガアレバ、イヤト云フコトハ出來ナイ、實ニ本員ナドハ無法ナ法ダト云ハナケレバナラヌト思ヒマス、ソレデ法ト云フモノハ餘程綿密ニ書イテ置キマセヌト種々ノ拔途ガアル、惡ルイコトヲシマス者ハ最モ其拔途ヲ考ヘル、ソレ故ニサウ云フ拔途ノナイヤウニ精精シナケレバナラヌ、況シテ是ハ承諾ヲ得ルニモ何ニモ及バナイ、此通「海岸ヨリ二里以内ノ地域ニ於ケル私人ノ土地又ハ庫倉其ノ他ノ貨物藏置場ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所有主又ハ番人、若其ノ在ラサルトキハ鄰佑ニ其旨ヲ告知スヘシ」トアル、倉ヘ這入ルカラ心得ロ、此倉ヲ開クカラ心得ロト言ツテ、ズン「行ッテ開イテ宜イコトニナル、勝手ニ開イテ、告知スル、左様心得ロト云フ、承諾ヲ得ルノデモ何デモナイ、實ニ甚シイ法律デハゴザイマセヌカ、ソレデ又此海岸カラ二里ト云フコトガアル、何處カラ二里ト云フコトヲ計算ナサルカ、マダ日本ニハ「シ一、ロー」ト云フモノガゴザイマセヌカ、恐ラク無イダラウト思ヒマス、サウ云フ杜撰ナル法文ヲ定メヲ見ルカ、是ハ政府委員ハ日本ノ民法ニ掲ゲテアルト言ハレタ、日本ノ民法ニソシナコトガゴザイマシタカ、私ハ知ラナイ、私ハ斯ウ云フコトガ書イテ有ルカ無イカ、恐ラク無イダラウト思ヒマス、サウ云フ杜撰ナル法文ヲ定メル、又或ハ歐羅巴各國ニ於テ斯ウ云フコトガアル、歐羅巴各國ニ於テハ皆此區域ガ一里トカニトカ區別ガ段々アルコトデアリマスガ、日本ニハ無イト言ハレマシタガ、是ナドモ本員ノ考デハ甚ダ感服シナイ、成ル程歐羅巴各國ト申シマスノハ多クハ「コンティイント」ノ方デアル、成ル程「コンティイント」ハ御存知ノ通鄰リト付合ツテ居ル國デアリマス、ソレ故ニ隨分輸入貨物ヲ

持ツテ來ルト云フコトガアルカラ必要デアリマスガ、日本ノ如キ島國デハ他カラ這入ツテ來ルモノハ稅關デ取締レバソンナコトハナイ、何モ鄰境ノドモコトハゴザイマセヌカラドウモ二里ナド、云フ必要ハチットモナイ、ウト云フコトハゴザイマセヌカラドウモ二里ナド、云フ必要ハチットモナイ、ソレノミナラズ能ク考ヘテ此法律ヲ見レバヲカシナコトガアル、二里以内ナラ行クガ二里以外ハ行カヌト云フコトハドウ云フ譯デアルカ、恐クハ本員ナドハ二里以内以外ノ區別ハ餘程ムヅカシイト思フ、ケレドモソレハ姑ク措イタ所ガ二里以内ナラバ這入レル、二里以外ナラバ犯則物デモ這入レヌ、サウ云フコトハナイ、又今日ノ關稅法ヲ見レバ二里以外デモ行ケル、若シサウ云フ犯則物ガアレバ關稅法デ行ケルノデアル、何モ殊更ニ茲ニ二里以内、二里以外ト云フコトヲ書ク必要ハナイト思ヒマス、ソレ故ニ本員ハ先刻申述ベマシタ通此關稅法ニ於キマシテ立入ルコトモ出來レバ臨檢モ出來ル、或ハ場合ニ依レバ差押モ出來ル、所ガ先日政府委員ハ關稅法ト違ツテ立入ルノデ、臨檢トハ違フト言ハレタ、或委員カラモ言ハレテ居リマス、立入ルコトガ出來ル、立入ツテ倉ヲ明ケサセルコトガ出來ル、ソレト臨檢トドウ違フ、事實同ジコトデハアリマセヌカ、行ッテ調ベテ見ル、倉ヲ明ケサセル、臨檢ト立入ルト云フコトトハドウ違フ、唯別段、人ノ倉ヘ行ッテ見ルノハ臨檢デナクシテ何デゴザイマス、チツトモサウ云フ區別ハナイダラウト思ヒマス、サウシテ見マスルト云フト此前政府委員ニ若シ行ッテ犯則物ガアッタラドウナサルカト御尋シタガ、ソレデ見レバ一向譯ガ分ラヌ、サウスルト政府委員ガ答ヘラレルニハ、先ヅ黙ツテ家ヘ歸ツテ來テ關稅法ニ依ツテアトカラ人ヲヤル、ソシナコトデハ行クマイト思フ、若シ犯則物ガアッタラ直ニ封鎖スルトカ或ハ番人ヲ置クトカ仕舞フカモ知レナイ、ソレノミナラズ是ナドニ至リマスト甚シイコトデアル、人ノ所有倉ノ中ヘ何時デモ構ハズ行ッテ調ベラレ、不當處分ヲサレテモ訴願ノ途モナイ、異議ノ申立ヲスルコトモ出來ナケレバ訴願ヲスルコトモ出來ヌ、此位酷イ法律ハナイト思フ、ソレ故ニ本員ハ此第二條ノ方ハ關稅法ニゴザイマセヌ、成ル程サウ云フ此關稅ニ關リマス物品ヲ運搬スルトキニハ或ハ此粗稅納付ニ關スル書類或ハ其生産地ヲ證明スル書類ヲ添付スルト云フコトハ是ハ必要カモ知レマセヌガ、一條ハ全ク不用ナモノト思ヒマス、ソレ故ニ本員ハ一條ハ削除セラレンコトヲ希望致シマスカラ、ドウゾ皆サンモ御賛成ヲ願ヒマス、又政府委員ハ分ラヌコトハ明瞭ニ御答ヲ願ヒマス、イツデモ分ラヌ

〔政府委員日賀田種太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(目賀田種太郎君) チヨット村田君ノ御説ニ對シテ説明ヲ致シテ置キタイト思フ、少シク村田君ノ御見解ハ關稅法ノ御見方ノ上ニ於テ違ッテ居ルヤウニ私ハ思フノデ、何トナレバ關稅法ニ申シマスルノハ第七章、八十四條以下ニアツテ「犯則事件ノ調査及處分」ト云フコトガ掲ゲテアル「關稅官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲ニ必要ナル場合ニハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得」トスウゴザイマス、是ハサウデナイ、犯罪ノ事實ヲ探スタメニ行クト言フコトハ書イテナインデアル、ソレヲ今ノ犯則ノ話ヲ持テ來テ、コチラノ法案ニクツケヤウトスルノハ私ハ違ッテ居ルト思フ、元、大陸ノ御話モアリマシタケレドモ大陸デモ沿海ノアル國ハ皆是ガ設ケテアル、海濱ヨリ内地ノ方へ指シテ二里ヲ伸縮シタル範圍内ニ於テ一ノ監視線ヲ……特別監視線ヲ劃スルト云フダケノ話、其海濱ト云フコトガ分ラヌト云フ御話ニアリマスケレドモ、今日帝國ニ於テ採ラレテ居ル法理ハ矢張春分秋分ノ最高潮ノ到ル所ト爲テ居ル、過日私ノ申シマシタノハ民法トハ申シマセヌ、民法ノ主義ニ依ツテ……〔村田保君〕速記録ヲ御覽ナサイ、民法トアリマスカラ……」ト述フ〕民法ノ主義ト申シマシタ、能ク御覽ナサルヤウニ……民法ノ主義ト云フコトハ或ハ法理學ノ上デ違ッテ居ルカモ知レナイ、寧ロ語ヲ換ヘテ申セバ公法ノ主義デアル、サリナガラ其民法ノ主義ト申シマシタノハ改正前ノ民法ニ掲ゲテアリマシタカラ……既ニ帝國政府ノ改正民法ニ於テハ公法ノ主義ヲ以テ法律ノ一條ニシテアル位ニアリマスカラ、ソレヲ指シテ民法ノ主義ト申シマシタノハ間違デナカラウト思フ、兎ニ角一度帝國政府デ民法ノ一部ニ入レタコトデアル、法理ヨリ正シク申セバ公法ノ主義デアル、其改正前ノ主義ニ依レバ違ヒモアリマセウガ、兎ニ角帝國政府デ今日採ツテ居ル所ハ右春分秋分最高潮ノ到ル所デアル、ソレカラ指シテ内地ニ至ツテ特別監視線ヲ劃スルニ於テ何モムヅカシイコトハナイ、是ハ平生調査スレバ區域ガ分ルガ、外ニ出デマシタ所ガ、ソレハ何モ處分ヲスルノデハナイ、何カ處分ヲスルナラバ訴願法トカ或ハ關稅ノ規則ニ依ルノデアリマスケレドモ何モ處分ヲセヌノデアル、又村田君ノ仰ニナル關稅監視地域及訴願ト云フノハソレハ一ノ處分ヲシタ時ヲ云フ、ソレハ何デアルカト云フト此六十一條ニハ關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ申出口トアル、即チ是ハ何モ二里以外ニ行フテ稅賦課スルト云フコトデハナイ、唯此方々限モナク尋子テ歩クト云フコトハ行カヌカラ特別ノ監視線、特別ノ警察線ノ内ニ於テハ或ル場合ニ於テハ稅關官吏ハ立入ルコトガ出來ルガ其場合ヲ限ツテアル、即チ私有ノ土地私有ト申

○スマスト重ニ何デアルカト申シマスルト唯今マデノ經歷ニ徵シマスルト云フト、寧ロ私人ノ家宅ノアリマスル所ノ土地ヨリモ寧ロ私有道路デアリマス、公有ノ道路ハ是ハ何モ違反デハアリマセヌガ、多クノ海濱ナドニハ私有道路又其他ノ場合ガ限ツテアリマス、貨物ノアル所、頻ニ今村田サンハ倉若クハ土藏ト仰ツシヤイマスケレドモ、場合ニ依ツタラ土藏モアリマセウケレドモ、平生トハ先ヅ稀ナ話デ、ソレヨリモ綿ガ其處ニ這入テ居ルトカ若クハ「アルコレ」ガ其處ニ這入テ居ル、或ハ煙草ガ其處ニ這入テ居ルトカ云フ其處ノ場所ニ附イテ關稅ノ納否ニ附イテ尋ガアッタナラバ、一應尋子ルダケノ話デ、唯サウ云フコトガ出來得ラル、ト云フ其場合ニハ、唯斷ツテ立入ルト云フコトデアル、敢テ其犯則ノ場合ニ臨檢シ搜查シ差押ヲ爲スト云フコトデハナイ、若シサウ云フコトデアルナラバソレニハ他ノ規定モイルケレドモサウ云フモノデハナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ又右ノヤウナ譯デアリマスカラ別ニ稅關トカ何トカ云フノ必要ハナイ、若シ關稅官吏ガ過リマシテ違ッタ所ヘ這入り、若クハ其今ノ區域ヲ超エテ違ッタ所ヘ這入りマシタナラバ、其時分ハソレド一法律ノ制裁ヲ蒙ル、民法ニ依ツテ今ノ不正ノ損害ニ附イテ訴ヘラレルカ、若クハ又家宅ニ斷ナク這入ツタト云フ刑法ノ罪ニナリマスルカ、又其他執務上ノ責罰ヲ受ケマスルカ、ソレド一制裁ガアル、是ハサウ云フヤウナ重イコトヲ含ミマシタノデハ全クゴザイマセヌノデゴザイマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○村田保君 少シ私ハ質問ヲシタイ、是ハ其犯則ト認メタル時ニハ關稅法中ニ……關稅法ニハ犯則ト認メタルトキニハ必要ト認メル、サウ云フコトデハナイノデアル、關稅法ノ五十八條ニ「稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査……」必要ト見タナラバト云フコトデ犯則ト云フコトデハナイ、イツモサウ云フコトガ區域トヨツト皆サン方ニ聞エマシテ、違ッテルヤウニ考ヘラレルガ、犯則ト云フコトハ何ニモナイ、稅關官吏ガ必要ト思ヘバヤル、必要トアルノハ犯則ノコトダラウト思フ、必要ト云フニハ犯則ト思フカラノコトデ、此處ニハ酒トカ砂糖トカ云フモノガ隠シテアルダラウト、斯ウ云フンデスカラ、サモゴザイマセヌト是ハ何デスカ、唯徒ニヤツテ見ルト云フ、サウ云フ譯ナノデスカ

○政府委員(目賀田種太郎君) サウ云フコトハ無論ナイ……何ノ御尋デスカ

○村田保君 犯則ト云フコトガアリマス

○政府委員(目賀田種太郎君) アナタノ御説ハソレデアツタノデス

○村田保君 サウデナイ、關稅法ノコトヲ言フ……

○都筑馨六君 私ハ是ハ村田サンノ削除説ニ贊成ヲシタイ、其理由ハ是ハ其

千八百六十九年ノ獨逸ノ稅關聯合ノ法律ヲ手本ニ採ラレタヤウニ見エル、大

體同ジヤウナ書キ方デアツテ、サウシテ大變ニ違フノデス、第一ニ違ヒマス

ノハ此事情ガ獨逸ト日本トハ餘程違ツテ居ル、境ヲ始終鄰ト接シテ居ツテ、サ

ウシテ夜デモ晝デモ交通ハ自由ニ出來ルト云フヤウナ所ガ何百里以外デナケ

レバ外國ハ無イト云フヤウナ日本ノヤウナ所トハ、マルデ事情ガ違ツテ居ル、

而カモ尙ホ獨逸ノ其時分ノ帝國トナリマス前ト云フモノハ境ニ接シテ大都會

ト云フモノハナイ、大抵十町ナリ二十町ナリ隔ツテ居ル、其間ヘ持ツテ行ツテ

一ノ地帶ヲ設ケ其地帶ハ特別ナ嚴重ナ監督ノ下ニ置クト云フ日本程ノ不便ハ

起キナイ、然ルニ日本ハドウカト云フト海岸ニ大都會ノ多クガ非常ニ接シテ

居ル、海岸カラ二里以外ノ所ト云フコトニナルト大都會ノ大部分ハ此中ニ這

入ツテ居ル、而モ尙ホ外國ノ如ク、獨逸ノ如クニ鄰ト境ヲ接シテ居ルト云フ

ヤウナコトガナイカラ、左程ニ嚴重ニ監督スル必要ハナイヤウニ思フ、又獨

逸ノ規定ト云フモノハ歐羅巴ニ同ジヤウナ規定ガアルカ知リマセヌケレド

モ、アルト申シテモ是トハ大變違フ、ト云フモノハ職務執行上ノ必要アル場

合ニ於テ何時デモ這入ルト云フ規定デハナイノデス、犯則ノ疑ノアル場合、

犯則ガアラウト云フヤウナ場合、見込ノ附イタ場合ダケガマア第一ニ行ケ

ル、ソレカラ第二ニハ人身保護ニ關スル千八百五十年ノ法律ノ規定ニ從ツテ

デナケレバナラヌ、即チ此制限ヲ受ケテ居ツテ、夜中ハイケナイ、但シ現行

犯ノ者ヲ追懸ケルトカ云フヤウナ時ヲ除クノ外ハ夜中ハイケナイト云フ、ソ

レカラ又二里以内ト云フコトハ決シテナイト思フ、ソレ程ナ廣イモノデハ此

地帶ト云フモノハナイ、ソレカラ又日本ノ倉ト云フモノハ多クハ其無論住宅

ト別ニナツテ居ル、倉モ澤山アリマセウ、併ナガラ大都會ノ例ヘバ東京ナラ

東京ノ海岸カラ二里以内ノ倉ト云フモノハ多クハ住宅ト殆ド接シテ居ル、住

宅ノ一部分ヲ成シテ居ル、ソレカラ夜中デモ何デモ犯罪ノ疑ノナイ場合デモ

稅關官吏ガ職務執行上必要ト認メサヘスレバ自分ガ外ニ差支ガアルトキニハ

行カレナイ、犯則ノ疑ノナイ場合デモ職務ノ執行上必要ト認メサヘスレバ夜

デモ行ケルト云フコトハ、其他ノ日本ノ制度ト權衡ヲ失フヤウニ思フ、裁判

官ノ命令ニ依ル場合デスマ餘程此夜間ト云フモノハ其家宅搜索ヲ爲スニ就イ

テハ制限ガ附イテ居ル、然ルニ無制限ニ行政官ニ其特權ヲ與フルト云フコトハ餘程穩ナラズ話ノミナラズ實際ニ於テ餘程不便ヲ感ズルト云フコトニナッ

テ來ヤウト思フ、イリモセヌニ細カイ制限ヲ附ケテ御手本ノ如クニ色ムノ制

限ヲ附ケテ此特權ヲ行政官ニ與ヘルナラバ穩當デアルケレドモ、斯ノ如クニ希

制限ニ特權ヲ與ヘルト云フコトハ不穩當デアルト思フ、故ニ私ハ寧ロ村田サ

ンノ削除説ニ贊成致シマス

○三浦安君 村田君ノ削除説ニ贊成、是ハドウズ諸君モ御贊成アルヤウニ希

望致シマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 少數ト認メマス、第二條

○都筑馨六君 此二條ハ私ハ一條ヨリモ餘程不穩當ト思フ、是モ其外國ノモ

ノヲ其儘採ツテ來テ、併シ外國ノ制度ノ中ニアル除外例ヤ何カハ共ニ採ツテ御

出デニナラナカッタ、結果トナルハマア外國デ、例ヘバ獨逸ノ如キ國ニ鄰ト

境ヲ接シテ居ツテ、其國境ニ沿ウテ鐵道ガアル、國道ガアルナドト云フコトハ

ナイ、日本ノハ東海道カラ山陽道ヘカケテ海岸ニ鐵道ガアリ國道ガアル、海岸

カラ二里以内デアル、ソコデ此規定ヲ文字通ニ讀ムト、ドウナルカト云フト、

東海道ノ鐵道ハ荷物ヲ運バセルニモ原產地カラ運バセタト云フ證明ガナクテ

ハイカヌ、ドウモ非常ナ苛酷ナ結果ヲ來サウト思ヒマス、餘所ノハドウナッテ

居ルカト言ヘバ、例ヘバ關稅ノ特別監視地帶内デモ地元町村内デ運搬スルニ

ハ證明ハイラナイ、或ハ天產物ハイラナイトカ何トカ云フヤウナ種々ナ除外

例ガ出來テ居ルカラ左程ノ不便ハ感ジナイ、ノミナラズ事情ガ違フ、國境ノ

二里以内ニ添フテ里道ガアル國道ガアルト云フヤウナコトハナイ、然ルニ其

儘ノ規定ヲ持ツテ來テ、コチラニ持ツテ來ルトドウカト云フト東海道デモ山陽

道デモ運搬スルニハ原產地ノ證明カ、否ラザレバ稅ヲ拂ッタト云フ證據ヲ添

ヘテヤラナケレバナラヌト云フノハ徒ラニ是ハ商工業ノ發達ヲ妨害スル規定

ト思ヒマスカラ、一條ヨリハ餘程不穩當ト思ヒマスカラ二條ノ削除説ヲ提出

致シマス

○政府委員(目賀田種太郎君) チヨット都筑君ノ御説ニ附イテ證明ヲ致シマ

スルガ、是ハ勅令ヲ以テ指定シタ物ニ限ルノデアリマス、是ハ追々海關稅ナ

ドガ高タナリマスルニ依テ最モ必要ヲ感ズル上カラ起ルノデ、唯今ノ所デハ僅ノ品デアル、即チ亞爾簡保爾「スピリット」或ハ煙草等ニ限ルノデアル、ソレカラ若シ又砂糖消費稅法案ニシテ法律ニナリマシタトキニハ、ソレ等ノ如キ物ニ限ルノデアリマスカラ唯今ノ如キ御心配ハイラヌコト、思ヒマス

○都筑馨六君 ソレハ餘所ノ制度デモ同ジク勅令ヲ以テナリ、或ハ大藏大臣ノ指定スル物品ニ限ツテ居ル、併ナガラ海岸ヨリ二里以内ニ其物品ヲ運搬スルトキニハ里道ヲ運搬シヤウガ、國道ヲ運搬シヤウガ、輸入後何箇月經テ運搬シヤウガ總テ鐵道ナリ郵便ニ托シテ、遞信行政ニ托シテ運搬スルトキハ原產地方ノ證明ヲ附ケテヤラナケレバナラヌト云フ規定ヲ設ケタ國ハ一つモナイ○政府委員(目賀田種太郎君) 尚ホ申シマスガ、唯今申シタヤウナ品ハ皆原產地證明ヲ持ツテ居ル、ソレカラ二里以内ト云フモノハ申スマデモナク勅令ヲ以テシマスカラ必要ノ品ノ外ハ要サス

○村田保君 本員ハ少シ質問ヲ致シタイ、此間一讀會ノ初ノトキニ政府委員デゴザイマシタカ、或ハ特別委員長デゴザイマシタカ、小賣ノ所ハ歐羅巴デハ

段々制限ガアルカラシテ此法律ガ出タ上ニハ追ツテ大藏省ニ於テモサウ云フ制限ヲスルト云フコトデアリマシタ、此二里以内ト申シマスルト先日申シタ通東京ハ固ヨリ海岸カラ二里以内、大阪モ二里以内、何處モ大概大都會ハ二里以内、其處ニ小賣ノ商賣ヲシテ居ル者モ澤山アル、煙草屋ニシテモ東京アタリニハ煙草屋ガ澤山アリマスガ、例ヘバ卷煙草ハ何百本以上ハ小賣ノ家ニ置クコトハ出來ヌ、或ハ酒ハ何石ハ小賣ハナラヌ、砂糖ハ何斤ヨリ小賣ハナラヌト云フヤウナ制限ヲ設ケラル、ヤウナ此間御話デゴザイマシタガ、成ル程是ハ斯ウ云フ法ガ出マシタナラバサウ云フ制限ヲ設ケナケレバナラヌカモ知レマセヌガ、其邊ヲ伺ッテ置キタイ、小賣ノ煙草ハ幾ラ置クコトハナラヌト云フヤウナコトガ分ツテ居リマスカ、伺ヒタイ

〔政府委員目賀田種太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(目賀田種太郎君) 村田君ニ御答致シマスガ、小賣ノ制限ハ却ツテ設ケザル方ガ便利ト思ヒマス、小賣ト申シマシテモ隨分大キナ店モアル、ソレデ是ハドウカ御承知ヲ願ヒタインハ、追々關稅率ガ高タナリマスルト到底斯ノ如キモノガナイト取締ガ出來ナイ、ソコデ今ノ品ハ勅令ヲ以テ定ムルモノデアリマスカラ、煙草ナドモ或ル種類ニ限ルコトモアルカモ知ラヌ、免ニ角高イ稅ノアルモノデ密商ノ手段トナルコトヲ恐レル、小賣ハ却ツテ制限ヲ設ケヌ方ガ便利ト思ヒマシテ斯ノ如ク廣ク設ケテ置イタノデアリマス

○村田保君 本員ハ是ハ削除説ノ方ニ贊成致シマス
○議長(公爵近衛篤麿君) 第二條、原案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス 起立者 少數

○議長(公爵近衛篤麿君) 少數ト認メマス、第三條
○都筑馨六君 是ハ極簡單ナコトデゴザイマスガ「大藏大臣」ト云フノヲ「行政廳」ト修正シタイト云フ意見デアリマス、ト申シマスルモノハ原案ノ書キ方デハ港ノ事ヲ舉ゲテ大藏大臣ノ職權ニ移ス恐ガアル、サウシテ今日デモ土木警察上ノ點カラ、或ハ衛生警察上ノ點カラ、或ハ火災警察上ノ點カラ往往難多ノ點カラ今日デモ許可ヲ受ケナケレバナラヌヤウナ規定ニナツテ居ル、其上ニ持ツテ行ツテ大藏大臣ノ特別許可ヲ受ケナイデモ行政廳ノ方ニ願ツテ來レバ知事ナラ知事ニ願ツテ來レバ、其知事限デ許セヌコトハナイ、大藏大臣ニ稟請ヲシテ内々内輪ノ許可ヲ得テ來ルコトニナリマセウカラ「大藏大臣」ト云フヨリハ「行政廳」トシテ置キタイ、其上ノ事ハ關稅法デ自ラ極マルコトニナリマセウト思ヒマス

○村田保君 本員ハ三條カラ六條マデヲ束テドウカ議題ニ供セラル、コトヲ希望スル、本員ハ一條二條ガ削除ニナリマシタカラ三條カラ六條マデ無論削除ニナル方ガ宜カラウト思ヒマス、一條二條ガ削除ニナリマシタ以上ハ此目的ヲ達セラレナイ、關稅特別監視地域ニ關スル法律ト云フモノハ一向譯ガ分ラヌコトニナツテ仕舞フ、ドウゾ是ハ諸君モ御贊成下サイマシテ滿場御同意下サランコトヲ希望致シマス、ソレデ是ハ無クツモ外ノ點カラ致シテ差支ナイト云フモノハ、先程申シマスル關稅法ノ方カラ行ケマスカラ……是ハ差支ヘルナラバ、本員モ無論置カナケレバナラヌト思ヒマスガ、關稅法ニ於キマシテ差支ハナイト存ジマスカラ……ドウゾ此三條カラ六條マデ束テ削除スルコトニ皆サン御同意ヲ願ヒタイ

○久保田讓君 村田君ニ贊成致シマス

○平山成信君 私ハ今ノ御說ニハ反對デアリマス、此事柄ハ前ノ事柄ト、マルデ達ツタコトデ、此事ハ私ノ聞イテ居ル所ニ據レバ餘程弊害ガ多イ、是ガソレデ是ハドウカ御承知ヲ願ヒタインハ、追々關稅率ガ高タナリマスルト到底斯ノ如キモノガナイト取締ガ出來ナイ、ソコデ今ノ品ハ勅令ヲ以テ定ムルモノデアリマスカラ、煙草ナドモ或ル種類ニ限ルコトモアルカモ知ラヌ、免ニ角高イ稅ノアルモノデ密商ノ手段トナルコトヲ恐レル、小賣ハ却ツテ制限ヲ設ケヌ方ガ便利ト思ヒマシテ斯ノ如ク廣ク設ケテ置イタノデアリマス

○都筑馨六君 私ハ村田サンカラ削除説ガ出タラ自説ヲ取消シマシテ寧ロソ
レニ賛成シマス、ト申シマスルモノハ此三條ノ目的ハドウカト云フト、今日

デモ築造物ヲ建テルニ附イテハ行政廳ノ許可ヲ要スル、ソレデアルカラ之ヲ

大藏省ノ方ニ協議シテ行政廳ノ許可スルヤウニシタラ宜カラウト思ヒマス、

又法律ニ於テ此箇條ヲ設ケテ置クノハ其目的ガ更ニ一步進デ居リハセヌカト

思フ、ト云フノハドウカト云フト今斯ウ云フ不便ヲ感ジテ居ル、港ノ界ニ持ツ

テ行ツテ馬關ノ如クビッシリ建テルカラ稅關官吏ガ其處ヲ巡回スル場所ガナク

ナツテ仕舞フ、將來ハ巡回官吏ノ便利ノタメニ其處へ幾分カノ道ヲ開ケサセ

テ置ク便利ヲ圖ルタメニ斯ウ云フ規定ヲ設ケテ置クノデハナイカト云フコト

ヲ恐レル、若シサウナツテ來ルト……何處ノ國デモ港ノ境ニ持ツテ行ツテ築造

物ヲビツチリ建テルモノハナイ、道路トシテ買上ゲル、賠償ヲ遺ツテ土地ヲ買上

ゲテ、サウ云フ區域ヲ設ケテアル、然ルニ法律一片ノ力デ賠償モ何モナク將

來自分ノ土地ニ持ツテ行ツテ家ナリ垣根ナリ建テル制限ヲ附ケルコトニナレバ

遂ニ馬關トカ門司トカノ地面ハ非常ニ價格ヲ損スルニ至ラウト思ヒマス、其

位ニ必要ガアレバ寧ロ買上ゲテ道路ニシテヤレバ穩デアリマスガ、港ノ二町

以内ノ處ニ持ツテ行ツテ幾分カ此法律ノ箇條ヲ利用シテ自由ニ巡回ノ地帶ヲ殘

サセテ宜カラウト云フノハ餘程、餘程デモアリマセヌガ幾分カ苛酷ナ制度ニ
ナル恐レガアラウト思ヒマスカラ削除説ガ出マシタナラバ、ソレニ賛成致シ

マス

○議長(公爵近衛篤麿君) 第三條ノミガ問題ニナツテ居リマシタガ 第三條カ

ラ第六條マデ併テ問題ニ供シマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 決ヲ採リマス、第三條カラ第六條マデ原案ニ賛成

ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵近衛篤麿君) 少數ト認メマス、第一條ヨリ第六條マデ總テ削除
ニナリマシタ、是ハ誠ニ新ラシイ例デアリマシテ是マデ無イノデアリマスガ、
議院規則ニハ「第三讀會ニ於テハ第二讀會ノ決議ヲ以テ議案トス」トアリマス
ガ第二讀會ノ決議ト云フノハ無イデアリマスカラ、順序カラ行クト三讀會ヲ
開カナケレバナラヌノデアリマスガ、無イ以上ハ開クコトハ出來マセヌカラ、
是ハ消滅ト見テ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

依託ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報道致シマス

〔小原書記官朗讀〕

稅關貨物取扱人法案特別委員

伯爵廣澤 金次郎君

子爵山本 實庸君

村田 保君

男爵本多 副元君

子爵真田 幸世君

谷森 真男君

武井 守 正君

兒玉淳一郎君

本間 千代吉君

酒造稅法中改正法律案外七件特別委員

侯爵黒田 長成君

伯爵正親町 實正君

伯爵吉井 幸藏君

子爵谷 千城君

子爵曾我 祐準君

伯爵石田 英吉君

渡邊 洪基君

中村 元雄君

小原 重哉君

男爵紀 俊秀君

男爵吉川 重吉君

石井省一郎君

○議長(公爵近衛篤麿君) 次ノ日程ハ追テ報道シマス、今日ハ散會

午前十一時四十三分散會

早川 周造君